

多職種協働カンファレンスに参加して

西尾市では今年度の下半期から、要介護者版と要支援者版の多職種協働カンファレンスをそれぞれ毎月開催しています。当部会の会員にも参加を呼び掛けて多くの会員が参加していただいています。要介護版では医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士、福祉用具相談員、生活支援コーディネーター、認知症地域支援専門員なども参加し、リハビリテーション専門職も他の専門職の専門性を学んだり地域の生活支援サービスについて知ったりする良い機会となっています。こうした活動に参加し視野を広げていく必要性を感じています。（部会長藤田正之）

連携のチカラで在宅ADLアップ～ 訪問リハビリで実感したこと～

<脳出血後遺症 60代男性>

平成29年春に脳出血を発症され、急性期、回復期病院を経てご自宅へ退院されました。退院後のご自宅環境への適応、入浴時の介助方法、屋外への出入り方法等の課題があり、訪問リハビリのご利用開始となりました。開始当初、屋内外の移動は車椅子をご利用、また屋外への出入りには電動の昇降機をレンタル利用され、ご家族の介助量が多い状況でした。

まずは屋内での杖歩行が上手に行えるよう、日常での介助方法をご家族にご理解、及び実践頂き、ご利用中の通所リハビリ事業所には、平行棒や階段等を利用した歩行訓練の協力を、またケアマネージャーさんには玄関周囲の環境調整を視野に、住宅改修業者への連携協力を頂き、日常生活における移動手段に照準を合わせチームプレイで取り組みを開始しました。

連携の一例を挙げると、ご自宅の食卓では周囲のスペースが狭く、移動の際に横歩きが必要な場面が発生し、通所リハビリにて平行棒を使った横歩きの訓練を実施頂き、ご自宅では訪問リハビリにてその応用訓練及びご家族の介助方法の会得に取り組みました。また、通所リハビリで行って頂いた階段昇降訓練を基に、福祉用具業者さんに適切な踏み台製品を選択、設置頂き、ケアマネージャーさんに実際の自宅玄関での昇降動作を幾度も確認頂くなど、ご利用者に関わる各事業所と常に連携を頂きながら訪問リハビリを進めていくことができ、ご自宅での移動及び屋外への出入りに関しては、見守りにて行えるなどADL（日常生活動作）がレベルアップされ、ご家族の介助負担も大いに軽減されました。

ご利用者・ご家族の想いを共有しながら、関わる複数事業所との連携を図ることで、情報の共有、目標の統一、多角的視点などを得ることができ“連携のチカラ”の重要性を改めて実感させて頂きました。

現在「近隣の御堂さんを歩いて廻りたい」とご意欲も高まり、更なる目標に向かって引き続き連携のチカラで訪問リハビリを進めて行きたいと思っております。

